

和田花子 齋 明治二十一年四月十一日京都生れ、昭和十七年十月十  
七(日)歿(一八八一—一九四二)。舊姓澁谷。京都府より第一高等女學校を経て津  
田共學塾に入り、在學中の明治四十一年、津田梅子の弟和田純と結婚。  
平壤控訴院判事、高知警察部長等夫の任地に従ひ、大正十二(年)慶尚南  
道知事となりた夫と再度渡鮮の折は、愛國婦人會慶尚南道支部長を務  
めた。また平壤時代には來鮮したメソジスト監督本多庸一(ひより)受洗。  
一方書に秀れ、晩年尾上柴舟に就き精進。今は四男眞は義姉梅子の後  
嗣となり、バンテウロフト将校財團助産生として昭和十四年アメリカに  
渡るも、戦時中消息を斷り。

隨筆、書翰、追悼文を収めた『落花一片』(故和田花子遺稿) (昭和  
十八年七月一日和辻純刊)がある。

